

平成24年
6月1日号

子どもと未来の柏のために

放射線対策 NEWS ニュース NO.010

掲載情報は個別に記載したものを除き5月23日現在のものです

市場流通食品等の放射性物質検査を開始

食品に含まれる放射性物質は、出荷前に生産地で検査が行われていますが、市民の皆さんのより一層の安全・安心の確保のため、市による市場流通食品・市内加工食品等の放射性物質検査を5月から開始しました。

●検査内容

市場に流通している食品、市内で加工された食品等をデパート・スーパー・製造所から直接買い上げ、登録検査機関に依頼し、放射性セシウムが含まれていないか、ゲルマニウム半導体検出器による精密検査を実施します。検査は、1カ月に5検体の予定です。

●検査結果

1回目の検査結果は次のとおり、全て基準値以下でした。(5月21日検査分)

品目	放射性セシウム	
	134	137
加熱食肉製品5種類(製造所: 柏市)	検出下限値未満(1.73~2.43)	検出下限値未満(2.16~2.58)

※()内の数値は各下限値。単位はベクレル/キログラム

今後は本紙のほか、市のホームページ等で掲載します。

●規格基準値を超える食品が出た場合

市内加工食品は、食品衛生法違反として回収等の必要な処置を行います。市場流通食品は、製造所を管轄する自治体に通報します。

☎保健所生活衛生課 ☎7167-1259

除染の進行状況(4月21日~5月23日)

除染の進行状況をお知らせします。詳しい内容は、市のホームページで見ることができます。

●除染を実施した施設

小学校/旭、旭東、田中、花野井、土、中原、高田、十余二、柏第六、柏第七

保育園/名戸ヶ谷

近隣センター/富里、高柳、田中、高田

●今後の状況

現在、8つの屋外スポーツ施設の除染工事が進行中、10保育園・13小学校・40公園が除染工事に向けて準備を進めています。小学校は8月末まで、保育園は10月末までに除染が終わる予定です。

☎小学校=学校企画室 ☎7191-7210、保育園=保育園 ☎7167-1137、近隣センター=地域支援課 ☎7167-1126、屋外スポーツ施設=スポーツ課 ☎7191-7399、公園=公園管理課 ☎7167-1309

地域の除染活動が進んでいます

市では、町会、自治会、区等が行う生活空間や共有空間の除染活動に、除染支援相談員や除染アドバイザーを派遣し、活動をサポートしています。5月23日現在、相談の申し込みを受け付けた町会等が76団体、うち事前測定が終わったところが20団体、除染作業を行ったところが8団体、これから除染作業を行うところが14団体となっています。

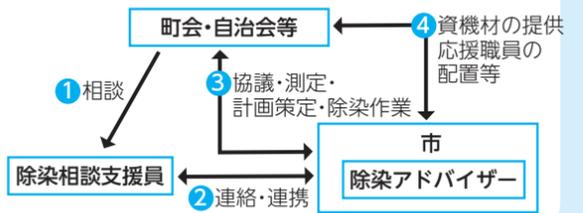


各地域のより身近な生活空間の除染については、皆さんのご協力が欠かせません。市は、各地域の皆さんが安全かつ円滑に除染活動が行えるよう積極的に関わりながら、除染を進めていきます。

☎放射線対策室 ☎7168-1036

放射性物質除染地域活動支援制度

「どうすればいいか」の相談から始まり、地域の状況を知るための放射線量の事前測定、除染範囲や方法等計画の決定、実際の除染作業までの一連を、市・除染支援相談員・除染アドバイザーがサポートします。除染作業に必要な資機材は、作業計画を決めるときに確認し、必要なものを市が準備して届けます。地域の除染については、除染支援相談員が放射線対策室へご相談ください。



放射性物質の検査結果

■市内の農産物 ☎農政課 ☎7167-1143

N[北部]ルバーブ、トマト、キャベツ、カブ、ミョウガ、セロリ、ニラ、キュウリ、フキ、ネギ [中央]ルバーブ、ほうれん草 [南部]大根、ニンジン [手賀沼]キャベツ、大根、フキ	検出下限値未満 (☎134: 10.89~12.15、☎137: 10.02~11.33)
---	--

(5月1日~22日検査分)

■給食食材 ☎学校保健課 ☎7191-7376

牛乳、生わかめ、かえり煮干し、米など12品目	検出下限値未満 (☎134: 10、☎137: 10※ 飲用牛乳は各1)
------------------------	---

■小中学校(提供した給食1食分) ☎学校保健課 ☎7191-7376

自校調理15校、給食センターの提供食	検出下限値未満 (☎134: 0.8~1.5、☎137: 0.9~1.4)
--------------------	--

(5月1日~19日検査分)

■保育園(提供した給食1食分) ☎保育園 ☎7167-1137

公立・私立合計8園の提供食	検出下限値未満 (☎134: 0.58~0.65、☎137: 0.62~0.70※ 飲用牛乳は各1)
---------------	---

(5月1日~12日検査分)

■表記の説明

N=Nal (Ti)シンチレーションスペクトロメータによる検査

☎=ゲルマニウム半導体検出器による検査

☎=放射性セシウム

数値は各下限値。単位はベクレル/キログラム

検出下限値=使用する検査機器で検出できる最小値のこと

※検査機器が異なるため、下限値の設定が異なります。Nal (Ti)シンチレーションスペクトロメータ検査で、数値が検出された場合、より精密な測定が可能な「ゲルマニウム半導体検出器」で再測定を行います

品目・学校名・検査方法などの詳しい内容は、市のホームページに掲載しています。私立幼稚園の検査結果も見ることができます



放射線に対する理解を深める一助となることを目的に、放射線に関する基本的な情報を皆さんにお知らせします。

☎放射線対策室 ☎7168-1036

第10回 自然界から受ける放射線量

放射線や放射性物質がもともと自然界にも存在することは、第1回で説明しました。では、実際に私たちは自然界からどのくらいの放射線量を受けているのでしょうか。

自然界から受ける放射線量は、世界の代表値として2.4ミリシーベルト/年、日本は1.5ミリシーベルト/年程度と報告されています。その内訳を見ると、呼吸や食べ物から受ける内部被ばくの線量が半分以上を占めています。例えば、食べ物の中には自然の放射性核種カリウム40(カリウム元素の0.012パーセント程度がカリウム40で、ベータ線を放出します)などが含まれています。食べ物を摂取することで、日々体内に自然の放射性物質を取り込んでいることとなりますが、これらの放射性物質は時間の経過や代謝によって減少する特徴もあるため、日常の食事で毎日取り続けても、体内放射能の全量はほぼ一定の量に保たれています。

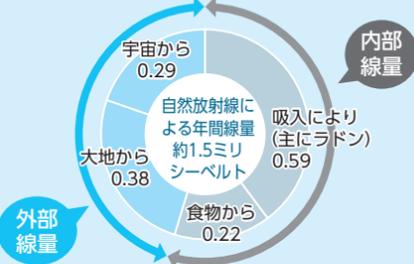
また、自然界からは外部被ばくも受けています。例えば自然の放射性物質を比較的多く含む花こう岩系の地質が多く存在するため、関東地方に比べ関西地方の方が、年間でおおむね2~3割ほど空間線量が高い傾向が見られています。狭い日本の中でも、さまざまな要因で、自然界からの放射線量にある程度の地域差が見られるということです。

原発事故による環境汚染が原因で、新たに、追加的に受けることになってしまった放射線被ばくを、自然界に昔から存在していた放射線被ばくと同一に考えることは難しい側面があるかもしれません。しかし、自然の放射線でも人工の放射線でも、線量が同一であれば放射線リスクは同一です。その点から、現状置かれた被ばくリスクの正しい理解のために、自然界からの被ばくの線量やその分布の状況について認知しておくことも重要になるでしょう。

■自然界から受ける放射線量

●日本における1人当たりの平均年間線量

単位: ミリシーベルト



■体内、食物中の自然放射性物質

●体内の放射性物質の量

カリウム40	4,000ベクレル
炭素14	2,500ベクレル
ルビジウム87	500ベクレル
鉛210・ポロニウム210	20ベクレル

(体重60kgの日本人の場合)

●食物中のカリウム40の放射性物質の量(日本)
(単位: ベクレル/キログラム)



出典:放射線副読本より

次回は・・・7月1日号 第11回 「放射線量と健康との関係」の予定です (東京大学環境安全本部・飯本武志准教授監修)